

**平成30年度**

# **自己評価報告**

**2019年4月12日**

**鹿児島第一医療リハビリ専門学校**

**評価委員会**

## I. 実施方法

鹿児島第一医療リハビリ専門学校では、本校評価委員会により作成された評価表に基づき、自己点検及び自己評価を行うこととする。

本年度は平成31年2月から3月に亘り全教職員を対象とした自己点検及び在校生を対象とした学生アンケートを実施するとともに、教職員による会議を開催し学校・学科運営及び学生教育等に係わる現状の問題点、対策等について検討した。これら活動で明らかになった事項を「自己点検・自己評価報告書」として以下に報告する。

## II. 自己点検の項目と内容

### 1. 自己点検

平成22年度より本校にて継続して実施している点検内容と同様とした。自己点検表の項目は10基準、全46項目あり、採点基準は本校の成績判定に基づき「優、良、可、不可」（優：8割以上、良：7割以上8割未満、可：6割以上7割未満、不可：6割未満）の4段階とした。

点検は全教職員を対象とし、各教職員による点検結果を学科等ごとの自己点検結果として取り纏めた後に、最終的に学校の自己点検結果として整理した。【資料1】

### 2. 学生アンケート

自己点検に加え、自己評価の一環として在学生を対象とした学校評価アンケートを活用した。【資料2.3】。

評価項目は全30項目とし、無回答の学生についてもそのままデータとして提示することとした。

### 3. 教職員による検討会議

全教職員参加の下、自己点検結果及び学生アンケート結果を踏まえ、学校及び学科の運営、並びに学生教育・支援等における現状の問題点・課題及び対策などについて検討を行った。

## III. 自己評価結果（状況の問題点・課題、対策など）

### 1. 教育理念・目的・育成人材像等

鹿児島第一医療リハビリ専門学校は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、柔道整復師及びはり師・きゅう師の育成を目的とする専門学校であり、現在、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、柔道整復学科、はり・きゅう学科の全5学科を設置している。

本校は「個性の伸展による人生練磨」を建学の精神とし、この精神を基調とした教育理念として、保健・医療・福祉に関する専門的な知識及び技能の習得とともに、医療従事者としての豊かな人格、識見の涵養に努め、医療の普及及び向上に寄与することのできる有為な人材を育成することを目的としている。これらの教育理念・目的及び育成人材像等については、学校パンフレット、学生便覧等に明記するとともに、日々の業務及び学生教育を通じて教職員及び学生に浸透するよう努められている。

### 2. 学校運営

(1) 意思決定・実行のプロセス

学園理事会及び評議委員会における学校法人としての全体の運営方針の下、本校の学校運営の重要事項等については、学科長等会議及び必要により教職委員会において検討されている。日々の業務運営、学生教育等については、必要により学科長等会議における検討の上、教務委員会等の各種委員会、学科等において細部にわたり検討し実行されている。

(2) 事業計画

円滑な運営と学生教育の充実を主眼に事業計画が策定されるとともに、教職委員会、学科長等会議の場において認識統一が図られた上で適切にこれが執行されている。

(3) 運営組織

ア 校長以下、教学部長、事務職員、各学科の教員は各種法令・規則等に定められた要員が配置され、その所掌業務・責任が明確になっている。

イ 各学科等の組織に加え、機能別組織として各種規程により各委員会の目的・所掌が具体的に定められ、有効に機能している。

ウ 教職員の就業及び処遇に関して、就業規則や給与規程により定められている。

(4) 運営基盤

ア 学校運営に必要な各種規程は、必要に応じて見直しが行われ、確実に整備、活用されている。

イ 本年度、事務システムを更新した他、OA機器の逐次更新により業務の効率化が図られているが、最新の事務機器（PCのバージョンアップなど）ソフトの導入については、次年度以降も改善が必要である。

ウ また、本年度末に学内のWi-fi環境を整備する工事が実施された。これにより、業務がより効率化がされるのではないかと考える。

### 3. 教育活動

(1) 理学療法学科

ア カリキュラム

(ア) 資格取得後に臨床現場で実践できる知識・技術・人間性の修得を目標として掲げ、実践教育に重点を置き、1年次から計画的に技術・能力を向上できるカリキュラム内容になっている。新たに「ふりかえり力向上手帳」を利用し、目標達成に向けての計画・実行を行うことで、学生の状況を把握し自宅学習を習慣化できるようサポートを行っていく。

(イ) 職員・学生の社会貢献活動として、地域で行われる一般・障がい者のスポーツイベントのサポート・小学生～高校生の部活動やスポーツクラブ部員に対してのメディカルチェック・霧島市の高齢者の介護予防の事業などに対して協力をおこなっているが、可能な限り学生も一緒に参加させることで専門職の職業観の育成につなげる。

(ウ) 卒業生による、新しい理学療法の情報や自身の研究内容、学生時代の体験談等についての講話を定期的に行うことで、同様に専門職の育成につなげ学習意欲向上を図る。

イ 授業評価（成績評価・単位認定についてを含む）

学校全体として学生対象の授業アンケートを実施しているが、3年次における臨床実習時の単位認定において、公平又は正確性について対策の不十分さが示唆された。臨床実習地の選別や教育者とのより密接な連携を行うことの必要性が感じられる。また臨床実習教

育者会議において学生の状況説明をし、客観的な学生評価ができるよう十分な説明を行っていく。

#### ウ 教員

教員は、臨床経験を積んだ専門性を備えている教員を確保している。教員の質としては、必要十分な人材をそろえていると認識しているが、学生が求めるもの、理学療法士協会が求めるもの、そのニーズの変化に柔軟に対応できるよう努め学術大会・研修会や社会貢献活動にも積極的に参加し、教員の質の向上に取り組む。

#### エ 国家試験対策

対策委員を置き、1年次から始まる学年毎の国家試験対策は3年間に繋がりを持たせるよう行い、100%合格を目標に行う。また就職に関しても、教員と医療機関（特に臨床実習施設）との関係を強固にし、就職サポート体制を継続する。

### (2) 作業療法学科

#### ア カリキュラム

(ア) 本学科の教育目標・育成人材像は、柔軟性と強い信念をもち、対象者のために第一に考えられる人材の育成である。

カリキュラム内容としても、臨床の現場で実践的に行動できるよう実技や実習を多く取り入れた内容を継続し、学生主体のアクティブラーニングでの授業にも力を注いでいく。また、クラス内での協力体制や協調性を養う目的、学校生活そのものを楽しい場として経験できるよう時折、学科行事を設け、レクリエーション等を実施している。

(イ) 社会貢献活動としては、さんぽみちのボランティアサークルに作業療法学科の学生が多く在籍し、教員とともにボランティアを行い、地域の施設からも学生の態度やボランティアへの姿勢が好評で毎年多くの依頼が来ている状況である。今後もボランティア活動を積極的に促し、社会性の獲得につなげていく。また、霧島市との連携事業で認知症予防教室への教員派遣に取り組み、地域貢献の場として活動しており、学生も共に参加できるよう計画していく。

#### イ 授業評価

学生対象の授業アンケートを実施し、その中で、授業の予習や復習を自宅で行っている項目であてはまらない、「あまりあてはまらない」の回答の割合が他の項目よりも多かったため、日々の課題を1年次でも前期から行うようにしていく。また、公平かつ正確な成績評価の項目に対しても、なるべくルーブリック評価にて行えるよう実施し学生へも事前に評価項目を提示していく。

#### ウ 教員

教員採用では、特に作業療法学科では高齢や精神、地域といった分野別専門性の知識を必要とするため、それぞれの分野で活躍している人材の確保に努めている。その上で、学生の立場や学生目線で学生と協調して指導が行えることにも努めている。今年度は一人育児休暇を取得している教員がいたため、これまで身障、高齢、地域、小児と幅広い臨床経験のある教員を本年度前期の期間採用していただいた。

#### エ 成績評価

作業療法士に必要な知識の習得や人間性・社会性があるかを含め判定を行っていく。成績不振者に対しては、小テストなどで早期に把握し、つまづきの原因分析と、課題の提供をし、学業に取り組む姿勢を整えるよう努めている。

## オ 国家試験対策

資格取得は、1年次は、まず語彙力の強化が必要なため、日々の暗記課題への取り組み、また国家試験対策1時間を設け、早期から能動的な学習が行えるよう実施していく。2年次では、更にグループ学習の質の向上を目標に、実際の国家試験問題に取り組み、2年次で終了している解剖学、運動学、生理学を中心に、日々の課題も出していく。3年次では、グループを構成し班員で協力し合い理解を深め、全体でのレベルアップをはかる。定期的な模擬試験を実施し、その都度、下位の学生には放課後や土曜日も学校での学習時間を設けていく。

### (3) 言語聴覚学科

ア 本年度の教育目標に対する取り組みとしては、1年次においては、社会人入学生が一定数以上いることを踏まえて、現役入学生に対して目標を持った学習の見本となってもらべく指導を行っていききたい。医療職に就くこと、言語聴覚士になることに対する自覚を1年生全体に早期から持たせることにより、学習に対する意欲を高め、基礎力の底上げに努めたいと考える。また、2・3年生の実習発表を聴講させ、現場の雰囲気を知ってもらうことにより、さらに学習意欲の向上につなげたいと考える。1年次の幼稚園実習や学内臨床への参加も、直接臨床につながる体験となるので積極的に学習に取り入れていきたい。

イ 2年次においては、1年次の見学実習での体験を、より専門性の高い学習への意欲へと生かせるよう指導していききたい。1年次に学んだ知識を基礎として、より専門性知識を得ることは、臨床における患者様の理解に直結してくる。学内の臨床や幼稚園での検査演習などを通して、机上で得た知識の確認とつなげていききたい。学内の臨床においては2年生が中心となるので、積極的に参加させることにより臨床力を高めていききたい。また、検査に対する知識の習得及び実施力、分析力を強化するためにも、ロールプレイなどを検査演習に取り入れ、より実践に近い教育を行っていききたい。

ウ 3年次においては、将来の臨床を見据え、卒業後、臨床現場で即戦力として通用すべく、臨床実習における実践教育の充実、臨床力の向上を目指す。また、臨床実習での体験を言語聴覚士になる為のモチベーションにつなげ、国家試験合格のための学習意欲を高めることにつなげたい。国家試験対策については、4月より科目別試験の実施、グループ学習による全体レベルの向上、10月からの週1回の模擬試験などの利用を通し、全員が国家試験合格水準に達成すべく指導を行っていききたい。

また、就職に関しても、卒業試験合格者に対しては積極的に活動を推奨し、早期に就職確定できるよう指導を行っていききたい。11月には就職説明会を実施し、お互いが理解したうえで就職先を選択できるように配慮した。

### エ 卒後のフォロー

卒業生の教育成果としては、就職先との連携をしっかりと行い、本校学生の指導力の向上、さらなる学習を望む卒業生に対しては、大学院進学における論文指導、学会発表に対してのサポートなど行うとともに、卒後研修を計画し卒業生の臨床力の向上はかかっていきたい。

また、卒業したものの、国家試験不合格者に対しても、情報提供、模擬試験などによるサポートを行っていく。

### (4) 柔道整復学科

#### ア カリキュラム

(ア) 本学科の教育目標並びに育成人材像においては、総合的な「人間力」向上を目標とし、3年間の学生生活を通じて、「技術」・「知識」・「社会人・医療人として必要なマナー」の3つの分野の向上目標を達成できるように、カリキュラムを組んでいる。また、苦手教科をなくす為、国家試験対策を1年次より始め、学生の能力に応じた取り組みを行っている。

(イ) 本年度はカリキュラム改正初年度であったが、一昨年度から準備を周到に実施したため、スムーズに改正カリキュラムに移行し教育を行えた。

来年度からは付属整骨院において保険請求の実習も取り入れ、更なる教育の改善に努める。

#### イ 国家試験対策

カリキュラム内容に関して、近年国家試験合格率の全国平均が下降傾向にあり、国家資格取得が段階的に難しくなっている状況をふまえ、全国平均レベルの推移に応じて、年度ごとに教育到達レベルの見直しを行い、教育に携わる先生方に対して、科目ごとに教育内容の充実・改善の対策を年度ごとに図っている。

#### ウ 授業評価

教育内容評価の一環として、学生による授業アンケートによる授業評価を実施しており、大きな改善点として捉えている。

#### エ 教員

教員採用に関しては、教員の指導能力、臨床的な専門性も考慮にいれて教員確保をおこなっており、さらに教員は、教育目標を到達するためにも、臨床能力の向上のために臨床現場、臨床セミナー等に積極的に参加し、教員自身の質の向上に積極的に取り組んでいる。

#### オ 成績評価、単位認定

学生からみて透明性のある公平な評価を旨としており、定期試験後は、学生に問題と解答用紙の返却を行い、自己確認を実施、教員による評価・認定基準も学生に判るように簡略化に努めている。

### (5) はり・きゅう学科

#### ア カリキュラム

(ア) 現代社会が求める医療従事者としての知識・技術の習得ならびに豊かな人間性の構築を目標に掲げるなか、学生の能力や個性を尊重し、教員と学生が共に学ぶ“共育”を念頭に置き、学科全体で学術研鑽に励んでいる。

(イ) カリキュラムは本年より新カリキュラムを適用し、以前より実習時間が増し、より基礎力・応用力・実践力を修得できるように組まれている。特に、本学科では2年次より本校付属鍼灸院にて臨床実習を実施している。講義で修得した知識・技術を臨床実習にて活用し、実習で得られた経験を学習に還元できるよう指導を行っている。

#### イ 国家試験対策

資格取得においても早期から取り組み、特に3年次で集中して指導を行い、国家試験全員合格を目指している。

#### ウ 授業評価

学校全体として学生対象の授業アンケート及び他学科教員に向けて公開授業を実施している。アンケート結果や他学科教員の意見・指摘を受け、各教員が講義内容や指導方

法等を熟慮している。

#### エ 教員

教員採用においては、治療技術における専門性と学生教育における積極性とを兼ね備えた教員を確保しており、外部講師との連携をより深めて学生の教育にあたっている。教員は積極的に臨床や講習会・学術大会等へ参加することで、個の能力の質を高めることはもちろん、学生へ還元するよう努めている。また本年度より平成32年度からの教員増員義務による教員確保のため、卒業生に教員養成科入学を依頼した。

#### オ 成績評価

当該学年で修得すべき知識・技術が十分に備わっているか、単位認定は他校・本校他学科において受けた教育科目の内容レベルが国家試験合格に達するものか、それぞれ検討した上で公平に評価・認定をしている。

資格取得の指導として成績不振者に対し、随時個別面談や保護者面談を行い、本人の意見も尊重し、目標到達できるようにサポートしている。

### (6) 授業評価・公開授業

#### ア 授業評価

自己評価の一環として、授業の改善を図り教育の質の一層の向上に資することを目的として、学生による授業評価を実施している。授業評価は、当該評価対象の講義の内容、教育要領・方法等の評価に加え、学生の授業態度に関する自己評価を含んだ学生によるアンケート回答形式をとっている。評価の結果は各担当教員に返却され、それぞれの教員の授業の在り方に対して今後の参考としている。

本年度も専任教員が担当する講義科目に対してアンケートを実施した。アンケート結果をもとに、本校の講義を今まで以上に学生にわかりやすく、将来につながるものになるように努力していく。

#### イ 公開授業

学生が興味を持って積極的に授業を受けることが出来るよう授業改善のための資を得るとともに、教員相互の研鑽を目的として、毎年度、公開授業を実施している。

公開授業終了後には、参加教員のアンケートに基づき、担当教員及び評価を行った教員との間で検討会を行い、公開授業で得た改善意見を着実に授業に反映している。

本年度は、前期に作業療法学科、後期に言語聴覚学科にて実施した。

### <在校生への学校評価アンケート>

学校評価アンケート(【資料2、3】)において、教育活動に関連する項目は1～10となっている。約85～90%の学生が「あてはまる・よくあてはまる」と回答(昨年度：約80～90%)しており、「ややあてはまる」まで含めると全ての項目で95%以上に達している。

特に、項目2では「専門職としての職業観を育成する教育」を謳っており、そこで92.3%の学生が「あてはまる・よくあてはまる」と回答(昨年度：91.6%)していることから、学校・学科での教育目標や活動が学生に対してより明確に伝わっているのではないかと考えられる。

一昨年度は約15%の学生が「あてはまらない・あまりあてはまらない」と回答した項目10の「公平かつ正確な成績評価」は、昨年度5.5%まで減少したが、今年度は3.

3%とさらに減少し、各学科において評価基準等がより明確になっているのではないかと思われる。

「教育活動に関連する項目」に対する「あてはまる・よくあてはまる」の評価は、昨年度と比較すると全体的に評価は上がっている。しかし、わずかではあるが項目3の「学生の悩みや相談などに応じている」は昨年度より評価を下回った。(昨年度：79.5%、今年度：77.0%)。

なかなか声を上げることの出来ない学生もいることを考え、学校側からも積極的に声をかけるなどして、一人ひとりの学生に対してよりきめ細かいフォローが必要であると考え

#### 4. 教育成果

##### (1) 理学療法学科

ア 教育および学生生活に関しては、担任制で各クラス全体を取りまとめ、個々の学生に対してはグループ毎の担当教員が必要に応じて面談を行いながら、日頃から学生の動向に気を配っている。グループ担当教員は、ふりかえり力向上手帳や自己発見検査・スクールライフアンケートの内容を参考に生活指導や学習方法の指導を行い、自宅学習の習慣化に取り組んだ。また、学生・保護者のとの三者間で意思疎通を図りながら、学力不振などの理由による退学率の低減に努めた。

##### イ 資格取得

本年度の国家試験合格率は92.3%で、全国平均の85.8%を上回る結果であった。資格取得率の向上は重要な教育目標であり、国家試験対策は1年次より開始しており資格試験に準じた模擬試験や卒業試験を実施した。

卒業生の活躍については、日本理学療法学会大会、九州理学療法士・作業療法士合同学会などの学会での多数の演題発表や、大学院での修士・博士号の取得、海外青年協力隊の隊員として医療後進国での理学療法士の養成に尽力するなど様々な活躍がみられた。このような卒業生の活躍については、随時ホームページで紹介することで広報につなげ、卒業生の講話を行うことで在校生の意欲向上にもつなげる。

##### (2) 作業療法学科

ア 教育及び学生生活に関しては、当学科は学年ごとの担任・副担任制を設けており、1学年を2名体制でサポートしている。退学者、留年者をなくす取り組みとして、入学当初より医療人としての心構えを意識させるよう指導し、基本的な社会性を習得させるよう授業や実習前等きめ細やかな学生支援を行っている。その結果、今年度は退学者3名、留年者0名であった。退学者数、留年者数ともに前年度より軽減できたことは成果である。今後も保護者・学生・教員とで意思疎通を図り、退学者、留年者の軽減に努めていく。

イ 本年度の国家試験合格率は84.2%で全国平均の71.3%を上回る結果であった。資格取得に向け、1・2年次からの基礎学力向上の取り組みが、今年度の結果につながった。作業療法士国家試験合格率の全国平均はここ数年下降傾向であり、資格取得は年々困難となってきた。そのため、引き続き危機感を持って資格取得率向上に向けた取り組みを行い、国家試験対策の強化を図っていく。就職に関しては、資格取得後の就職率100%を維持することができた。

##### ウ その他

卒業生・在校生の社会的活躍・評価に関しては、本学科の在校生を中心にしたボランティアサークル「さんぽみち」の活動が特筆すべき点である。地域の施設等での地道なボランティア活動を評価され、「霧島市道義高揚・豊かな心推進協議会」より「善行表彰」をいただいた。また、卒業生による学会等での演題発表も行われており、社会貢献も認められる。

今後も学生生活の支援及び資格取得、ひいては卒業後のサポートも行えるよう教員一同学科運営に鋭意努力していきたい。

### (3) 言語聴覚学科

ア 教育及び学校生活に関しては、担任制により学生に対して細やかな指導が出来るように配慮している。教育に関しての連携、生活に関する指導にも力を入れ、医療従事者になるためのマナーについても指導を行っている。また、各学年早期に二者面談を行い、学習面、生活面に関する相談も行っている。さらに各学年、毎週宅習ノートの提出を義務付けており、個別の学習状況の把握も行っている。成績不振者に対しては、二者面談、保護者を交えての三者面談を適宜行い、成績の向上、生活面の安定に努めている。その結果、本年度の退学者は0名、成績不振による留年者1名(2年次留年)であった。

本年度においては、学生に対しての付きまとい案件が発生した。この件については、学生と霧島警察署に相談に行き、対応してもらうことにより解決を見た。学生が安全に生活できるよう、教員、学生、保護者と協力していきたい。また、この件を受けて霧島警察との連携が取れるようになった。

各学生の問題については、教員間で情報を共有し、問題の解決に全教員で取り組む体制が確保できている。保護者との対応についても今まで以上に配慮が必要となってくる事が考えられる。学生を言語聴覚士にするために必要と思行った実習教育者の行動や、教員の行動に対して苦情が発生し、対応に苦慮する件が発生している。保護者に対してこれまで以上の細かな説明が必要となり、納得したうえでの教育に対する協力を求める必要がある。

金銭面に関する問題も軽視することができない。通常の奨学金だけでなく、医療機関からの奨学金の募集や社会人に対しての奨学金の紹介など、金銭的理由で学業を断念することが無いよう配慮していく。

### イ 資格取得

資格取得に関しては、本年度の国家試験合格率は68.9%に対して本校の合格率は68.2%(22人中15人合格)と0.7%下回る結果となった。この中には自己採点においては合格点を上回っていたものの、合格に至らなかった学生もいた。この結果を受けて合格率低下の問題点の検討及び今後の対策について討議した。問題点として、出題傾向の変化に対応しきれない点が挙げられた。出題の基準となる言語聴覚士テキストが改定され、このテキストを基礎とした模試の絶対量が不足しており、学生が対応できなかったと考えられる。また、国家試験対策のグループ学習において、成績優秀者を中心としたグループを構成したが、努力する学生とあまり努力しない学生との人間関係において問題が生じ、助け合う体制が十分ではなかったようである。また、学習意欲の低い学生に対して、なかなか注意できないと言う事例も見受けられた。卒業試験においても、全員を受験させたいと言う思いから、合格基準の設定が低めに設定されたことも要因の一つであると考えられる。就職活動においても、卒試合格者は開始しても良い

ことになっていたが、就職活動が学習の妨げになっている場合も見受けられた。さらに、留年を極力防止するため、1・2年時の進級基準が甘くなっていたことも国家試験合格レベルの学力を身につけさせることができなかつた要因の一つと考えられる。これらの反省を基に新たな国家試験対策を実施し、合格率の向上に努めていきたい。具体的事項としては、①1・2年時の基礎学力の向上、②国家試験模試の問題の充実、③教員自らの手で、言語聴覚士テキスト3版からの科目別試験問題の作成、④卒業試験の厳格化、⑤学習グループの構成の見直し（成績だけではなく、人間関係を重視した構成へ）、⑥学習時間の配分の見直し（グループ学習だけでなく、個別学習の時間を設定する）。これらの改善を持って今後の国家試験対策を行っていきたい。

ウ 就職に関しては、卒業試験合格者に対しては積極的に活動を推奨し、早期に就職確定できるよう指導を行ってきた。しかし、卒業試験の基準を甘くしたことにより、国家試験合格のレベルに達していない者も就職活動を始めさせてしまった。この点においては、しっかりと見極めて就職活動をさせていきたい。就職先については、11月には就職説明会を実施し、お互いが理解したうえで就職先を選択できるように配慮した。国家試験合格者については、全員が希望する就職先に入職することができた。

エ その他

卒業生・在校生の社会的活躍・評価に関しては、様々な医療現場や施設等において、臨床家として患者（児）様のために努力している。5年以上の臨床経験のある卒業生については、本校の実習教育者として次世代の教育に協力して頂いている。学会等での研究発表も行われており、言語聴覚の分野での社会貢献も認められる。また、在校生においては、学内臨床における療育活動やボランティアへの参加などを通して社会に貢献している。

#### (4) 柔道整復学科

ア 柔道整復学科は、学生にとっての3年間の就学期間は、成功や挫折を繰り返すことが、素晴らしい経験となり、教育目標の「人間力」を育む基礎となると考えている。ただその中でも、学生生活に挫けそうになったとき、いかに学生に寄り添ってサポートするかが、重要と考えている。

当学科は学年ごとの担任制を設けており、教育並びに学生生活のサポーターとして学生支援を行っている。取組の成果として、総入学342名に対して288名の卒業生を輩出、約84%の卒業率であり、少なからず、きめ細やかなサポート体制が出来ていると思われるが、退学者、留年者をなくす取り組みは、「学業、人間関係、健康面」など学生の多岐にわたる悩みや問題点を想定し、指導にあたっている。今後も保護者、学生、教員と三位一体となって、教員一同学科運営に努めていきたい。

イ 資格取得

国家試験合格率10年連続90%以上であり、平成25年度より6年連続合格率100%を達成できた。これは全国柔道整復師養成学校121校中、本校柔道整復学科だけが達成している成果である。

ウ 就職

免許取得後の就職率も100%を維持し、卒業試験合格と同時に就職活動を開始し、学生が主体的に選択できるように実施している。又、独立開業者も50名以上にも及び、学校の取組みの1つである高校生へのトレーナー活動、霧島市と提携して実施している

介護予防講座にも社会的貢献の1つとして、在校生と同時に卒業生にも積極的な協力を頂いている。

主な教育成果に関しては、上記の通りで、数字ばかり目に行きがちではあるが、全ての学生3年間の就学期間を全うし、また学生にとって学生生活が少しの不利益もなく、有益であり得る様に、常に教員一同努めていきたい。

#### (5) はり・きゅう学科

ア 教育及び学生生活に関しては、担任制により各学年を取りまとめ、個別面談を適宜実施し、生活面・学習面への指導を行っていたが、1年生3名、2年生1名の退学者を出してしまった。退学原因として、学業不振が2名、進路変更が1名、育児のため就学困難が1名であった。また成績不振者には個別面談に加え三者面談や学科長同席での指導を行い、保護者とともに学生をサポートし学力向上を目指している。さらに、学科全体で学生の動向に目を向け、教員間での情報交換を密に行い、問題点の改善を目指している。今後も、毎年行う保護者会なども機能させ、学校と学生・保護者間での連携を十分に図り、退学率の低減に努めていく。また、金銭的理由により退学を選択することがあることから、奨学金制度活用以外の検討も行っていく必要があると思われる。

#### イ 資格取得

本年度は学外模試が減ったため、教員が国家試験レベルに沿った模擬試験を作成実施し、解答の見直しの徹底を指導している。さらに学生個人のレベルに応じて個別に学習指導を行っている。また学外の先生を迎え講演をしていただき、資格取得に意欲を持たせた。本年度の現役生の国家試験受験者は、はり師、きゅう師ともに4名受験し、全国平均合格率が、はり師76.4%及びきゅう師78.5%のところ、はり師75.0%、きゅう師100%と、1名のはり師不合格の結果となった。後日、本人と面接し、聴講生として1年間勉強し再受験を促した。

#### ウ 就職

国家資格取得者が全員就職できるよう働きかけ、早期からの職場見学や業界で開催される就職セミナーに積極的に参加を促した。本年度の実績としては、求人数は増加しており、資格取得学生は希望の職場に就職できた。また開業を希望する学生及び卒業生、卒業生の再就職についても積極的にサポートしている。

#### オ その他

卒業生・在校生の社会的活躍・評価に関しては、卒業生一人ひとりが臨床現場で患者様と向き合い、公共の福祉に貢献している。今後も社会に求められる鍼灸師をより多く輩出できるように努力していく。

### <在校生への学校評価アンケート及び教職員による自己点検>

学校評価アンケート(【資料2, 3】)において、項目19の「国家資格取得に対する指導体制」では88.7%の学生が「あてはまる・よくあてはまる」と回答(昨年度:82.8%)しており、前述した『3.教育活動』の学習指導に関する項目でも高評価を得られていることから、国家試験対策だけでなく、普段の講義から国家試験や就職後を見据えた指導がなされていることによって、全学科で高い国家試験合格率を実現できているものと考えられる。しかし、「あてはまらない・あまりあてはまらない」と回答した学生は昨年度が2.9%だったのに対して今年度は4.3%となっている。

また、卒業後の進路に関しても情報の提供や指導体制が適切である(項目30)と評価を得られたことから、学生に合わせた情報提供や指導ができていると考えられ、その結果が高い就職率につながっていると思われる。項目3の「学生の悩みや相談などに応じている」の評価が奮わなかったことも踏まえると、学習指導だけでなくそれ以外の部分のフォローが求められている可能性が考えられる。

退学率に関しては、理由は様々であるが毎年一定数の退学者が出ているのが現状であり、第2志望での入学など、入試の時点で不安を感じる者が在籍している場合もある。学校評価アンケートでは「学生 対 学校・教員」に関する項目(3・7・8・18)も良い評価が得られ、特に項目18の「成績不審者にたすの対応」は、「あてはまる・よくあてはまる」の評価が83.6%と昨年度の78.2%から向上した。「学校と保護者との連携」(項目24、旧項目26)についても、昨年度は約20%の学生が「あてはまらない・あまりあてはまらない」と回答したのに対して今年度は10.7%と改善傾向がみられた。学生対応だけではなく、保護者との連携をより密にとっていくことが退学率の低減につながるのではないかと考えられる。

## 5. 学生支援

### (1) 支援態勢

ア 学科ごと担任制をとり、各所掌事務祝と連携しつつ、入学から卒業及び卒業後まで一環した支援態勢をとり、木目細かい学生支援に努めている。

イ 「教務委員会」を設置し、学生支援に係わる全般施策について随時検討するとともに、ハラスメント、個人情報、安全・衛生などの委員会により、機能別支援策について具現化するとともに、個別の事案に対応している。

### (2) 就職支援

就職支援は担当者と担任が常に連携を取り適切に行っている。理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科による合同就職説明会を開き、学生の就職活動における負担軽減や就業意識向上に努めている。

また、実習施設を主に学科教員が施設訪問等を実施し、情報収集を行っている。学校に寄せられた求人票は図書室にて自由に閲覧可能である。進学希望の学生に対しても同様に、編入可能な学校からの入学案内をいつでも閲覧できるようにしている。

### (3) 学生生活

各学科とも担任制をとり、各担任が相談窓口となるとともに、専任教員全員で学生の各種相談に対応できる体制を整えている。

また、学生から相談のみならず、成績・生活面等に関する個人面談を行い、学生の心情(身上)把握に努めるとともに、必要に応じて保護者と連絡をとり、学校と家庭の連携を図っている。各学科の詳細については「3.教育活動」及び「4.教育成果」で述べている。

### (4) 学 費

ア 学費の延納分納制度を設け、経済状況に応じた学費納入の態勢をとっている。

イ 日本学生支援機構の奨学金申請手続等を適時に支援するとともに、必要に応じ病院等奨学金制度はじめ各種教育資金支援制度各種奨学金に関する情報提供を行っている。

ウ 本年度から、言語聴覚学科が「専門実践教育訓練給付金」の指定講座として指定を受けるとともに、来年度には柔道整復学科が指定講座となるよう申請手続を進めており、

社会人学生の経済的な負担を軽減するための措置を行っている。

(5) 健康管理

ア 毎年定期健康診断を実施し、学生の負傷、疾病発生時には学生総合保険により学生支払負担を軽減するなど、総体的に学生の健康管理を行っている。

また、学科によっては実習前に各種血液検査を実施している。

イ 衛生委員を主体に、各種衛生情報（インフル対策、食中毒対策など）を提供するとともに、日々、担任教員により体調把握を実施し早期受診を図っている。

(6) 課外活動

公認サークルに対しては助成金を支出し、円滑に活動が行えるよう、顧問の指導を含め学校全体で支援を行っている。本年度の県大会および九州大会の成績は以下のようになり、多くの運動部が優秀な成績を収めた。

(第39回鹿児島県専門学校体育大会 成績)

優 勝			
団体	男子テニス部	女子テニス部	男子ソフトテニス部
	男子卓球部	女子バスケットボール部	
個人	男子テニス部	女子テニス部	男子卓球部
準優勝			
団体	男子バレーボール部		
個人	女子剣道部		
3 位			
団体	男子サッカー部		
個人	男子ソフトテニス部	男子卓球部	男子剣道部

(第40回九州ブロック専門学校体育大会 成績)

優 勝			
団体	男子ソフトテニス部	男子卓球部	
個人	男子ソフトテニス部	男子卓球部	女子剣道部
準優勝			
団体	女子ソフトテニス部		
3 位			
団体	男子テニス部		
個人	男子テニス部	女子テニス部	男子卓球部

(7) 学生寮

男子寮及び女子寮があり、希望者が利用できるように整備されている。その他、学生の住居及び下宿先についても教学課を通じて紹介を常時行っている。

(8) 通学支援

公共交通機関が限定されている志布志・鹿屋方面には無料のスクールバスを運行し、所在学生の通学支援を行っている。

また、来年度には、第一工大が運行している出水方面、串木野方面、鹿児島市方面、都城

方面のスクールバスについても、本校学生が利用できるよう調整を行っている。

#### (9) 卒業後のフォロー

卒業生に対しては、卒業教育として定期的に勉強会や研修会を開催し知識と技術の向上に役立っている。特に、国家試験不合格の卒業生等に関しては、聴講生制度を設け、次年度の国家試験受験のための態勢を整えている。

### <在校生への学校評価アンケート>

学生相談に関しては、個別で面談ができるような場所が不足しており、個室等が確保できると相談をはじめ、進路指導等もしやすくなるのではないかとと思われる。

学校評価アンケート(【資料2, 3】)において、「あてはまらない・あまりあてはまらない」と回答した学生は、項目22の「学校行事」では6.1%(昨年度13.3%)、項目23の「サークル活動」では13.3%(昨年度15.6%)となった。学校全体としての活動はカリキュラム上難しいものがあるが、学科単位でイベントを企画したり、個人がサークル活動に参加しやすい環境ができてくると、学生生活がより充実するのではないかと感じる。

就職・進学指導、学生相談、経済的側面に対する支援及び保護者との連携に関しては前項「4. 教育成果」にて述べた。

## 6. 教育環境

### (1) 施設・設備

本年度には、エアコンの修理、トイレの修繕および洋式便座の設置などが実施された。また、学内のWi-fi環境を整える工事が実施された。全教職員および全学生が共通したネット環境を持つことで、来年度よりE-ラーニングが可能となり、学習環境や教育内容はさらに向上するのではないかと考えられる。

### (2) 学外実習

実習指導者と年に1回臨床実習指導者会議を実施しており、学生が実習を行うために事前に教員が各施設間と協議し、実習施設と連携を図ることで学生が実習を行いやすい環境を整えている。

インターンシップ及び海外研修等に関しては未実施であるため十分な教育体制とはいえないが、今後は十分な教育体制の必要性を全教職員にて共有することにより改善される方向にあると思われる。

### (3) 危機管理(防災対策など)

#### ア 学校危機管理マニュアルの整備

文科省の通知を踏まえ、各種危機管理事態の発生に際し学生・職員の安全・安心を確保するための措置事項等を取り纏めた「学校危機管理マニュアル」を新規に整備した。

#### イ 訓練・点検

耐震設備、消防設備などの防災施設は整備されており、定期的に検査、修繕を行っている。また、防災訓練・退避訓練など、緊急時に備えた準備も実施できている。

### <在校生への学校評価アンケート>

学校評価アンケート(【資料2, 3】)において、施設に関する項目で「あてはまらない・

あまりあてはまらない」と回答した学生は、項目25の「図書館利用のしやすさ」では23.0%（昨年度：20.5%）、項目26の「施設設備の整備」では18.4%（昨年度；16.2%）となった。図書館利用については司書が不在となったことで、より不便さを感じたのものと史料する。

学外実習及び臨床実習に関して、その前後での指導（項目29）についての評価は「あてはまる・よくあてはまる」と回答した学生は89.1%（昨年度：84.3%）で、「ややあてはまる」まで含めると約97%となることから、今後とも質を落とさないよう継続していきたい。

## 7. 学生の募集と受け入れ

### (1) 学生募集活動

学校案内パンフレット及びホームページの作成、高校訪問、進学ガイダンスへの参加、オープンキャンパス等により、適正に実施されている。これらの活動においては、学校の就職実績や求人状況、国家試験合格率等が活用されており、学生募集への貢献度は高く評価できる。

### (2) 入 試

ア 入試担当職員を配置し、出願から選考に至るまで入試区分に応じて適正に実施されている。

イ 入試選考については、「入学試験実施規定」に基づき入試委員会により適切に選考を行っている。ただし、従来、合否判定基準については明確に文書化したものがなかったため、年度ごと「年度試験実施計画」に明記することとした。

#### ウ 入学手続

合格者が募集要項で示す手続完了期間までに手続き完了できるよう、必要書類の発送及び受付が適正に実施されている。

なお、入学辞退者については、入学金を除く納付金の返還も確実に行っている。

#### エ 入学時納入金

経済的理由で進学を断念することのないよう、平成24年度入学生から指定校推薦入学学生及び施設長推薦入学者、社会人入学者の入学金を免除するとともに、分納・延納制度を設けている。

学納金以外に必要な費用は学生募集要項に明記している。

## 8. 財 務

### (1) 全 般

学校運営に伴う収支状況は安定しているものの、今後は将来的な少子化傾向とコスト削減等、社会情勢に合わせ検討していく必要がある。

### (2) 収 支

予算・収支計画は、過去の実績を反映しつつ、年度の特性に基づいて適正に計画しており、単年度としては有効に機能している。将来的には、中長期的な学校運営の構想および展望と、単年度の予算・収支計画を関連付けるとともに、予算と執行の吻合及び更なる経

費の節約に努めていく。

(3) 会計監査

私立学校法及び寄附行為に基づき、学校法人全体を単位として実施されており、その監査結果については理事会及び評議員会の承認を受けている。

(4) 情報公開

グループ校である第一工業大学のホームページにて情報公開しているが、今後、本校ホームページにて直接閲覧できるよう措置することが必要である。

## 9. 法令等の遵守

(1) 法令・規則等に基づく学校運営

学校教育法、専修学校設置基準、理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法、柔道整復師法並びにあん摩マッサージ指圧師・はり師、きゅう師等に関する法律（法律第217条）、学校法人の寄附行為、学則等諸規定に基づいて設置及び運営されている。これは教職員全体に周知されている。

(2) 監査・調査

ア 私立学校運営状況調査の受検

- (ア) 平31年1月に鹿児島県（学事法制課）による「私立学校運営状況調査」を受検し、学校運営及び学生教育等が適正に実施されている旨の所見を頂いた。ただし、学校作成の計画に関し、次のとおり「是正を要する事項」として指摘を受けた。

「是正を要する事項」

「『学校安全計画』及び『学校保険計画』について、学校保健安全法第32条において準用する同法第5条及び第27条の規定により、それぞれ策定し実施すること。」

- (イ) 上記指摘については、本年度計画において、「2019年度学校安全計画」及び「2019年度学校保健計画」としてそれぞれ策定し、その是正状況について県に報告を実施した。

イ 各種報告

「自主点検結果」、「指定学校養成施設等の定期報告」及び「年度授業実施状況確認表」を定められた様式・方式により県に報告し、それぞれ適正に実施されていることの確認を受けている。

(3) 個人情報保護対策

個人情報保護法を遵守し、できる限り教職員及び学生データの漏洩や不法侵入等がないように教職員に対して周知徹底して注意を促している。電子データ管理の不法侵入対策は厳重にウイルス対策を行うとともに、総括担当者がサーバーを管理している。紙データの書類管理については教員事務室そのほかで施錠保管、倉庫保管、耐火金庫保管で分けけて厳重に保管している。今後もセキュリティー強化並びに個人情報保護対策にむけ、更なる拡充を図っていく。

(4) 自己点検・自己評価

ア 自己点検・自己評価の体制

- (ア) 平成22年度から平成27年度までは教務委員会により自己点検・自己評価を所掌し

ていたところ、平成28年度からは専門の組織として「評価委員会」を立ち上げ、より専門的に自己点検・自己評価を行える体制を整備している。

- (イ) 平成29年度からは、全教職員が参加する教職委員会において、自己点検・自己評価の結果について検討会を実施し、点検・評価に基づく改善施策等について検討をしている。

#### イ 情報公開

自己点検及び学校評価アンケートの結果については学校ホームページにて公開している。先述した監査において指導に基づき、今後は「自己点検・自己評価報告書」に関しては理事長へも提出をすることとする。

#### (5) 学校関係者評価

在校生保護者等、学校に関係する方々に学校運営等に関し評価して頂き、より良い学校づくりを進めるための資を得ることを目的として、本年度より学校関係者評価を行うこととした。

## 10. 社会貢献

### (1) 学園祭

地域住民との交流として、第一工業大学および第一幼児教育短期大学と合同で学園祭を開催している。

### (2) 地域活動

#### ア 施設の地域開放

- (ア) 言語聴覚学科による「ことばの教室」、柔道整復学科による「付属整骨院」及びはり・きゅう学科による「付属鍼灸院」を定期に開設し、地域住民に対し専門の医療・リハビリテーションを提供するとともに、学生の実習に役立たせて頂いている。

- (イ) その他の学校施設の開放も行われており、協会主催の研修会や勉強会、理事会の会場としても活用して頂いている。

#### イ 福祉等活動

霧島市の社会福祉協議会と提携し介護予防講座を随時開催するとともに、地域の福祉・健康関連イベントに積極的に参加している。

### (3) ボランティア活動

学生のボランティア活動については、学生のスキルアップにとっては良い機会であるとの認識より、ボランティアサークルを中心に積極的な参加を促している。活動状況の報告は、随時学校ホームページにて更新している。

本年度は、第12回鹿児島県障がい者スポーツ大会、霧島スポーツまつり2018、第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会県予選、第4回鹿児島マラソン、第27回霧島市・上野原縄文の森駅伝大会などに参加した。

また、その活動が表彰に値する場合は表彰等を実施している。本年度はボランティアサークル「さんぽみち」およびスポーツリハビリテーション部が霧島市より善行表彰を受けた。今後も学校全体で積極的に理解を示していき具体的にボランティア活動を支援していきたい。

なお、ボランティア活動に際しては、学業がおろそかになり、成績不振に陥ることのないよう、学生の動向を常に把握するよう努める必要がある。

## **IV. 展 開**

### **1. 自己点検・自己評価結果の反映**

自己点検・自己評価の結果及びこれに基づく検討会での改善施策等については、引き続き全教職員間で認識共有を図りつつ、2019年度事業計画及び各事業の細部計画に反映するとともに、実施段階に着実に具現化していく。

### **2. 日々の業務見直し**

自己点検・点検以外にも、常に学校及び学科運営や個々の教職員の業務については、常に見直しを行い、学生本位の学校・学科運営及び業務を実施することに努めることとする。

### **3. 学校関係者評価**

在校生保護者等、学校に関係する方々に学校運営等に関し評価して頂き、より良い学校づくりを進めるための資を得ることを目的として、本年度より学校関係者評価を行うこととした。

## **V. 今後の評価報告について**

自己点検では、学科単位では回答しにくい項目がいくつかあるため、評価委員会内で検討し、それらについては学科長会議等で学校としての回答をしたらどうかとの意見があるため、引き続きアンケート内容を検討していきたい。